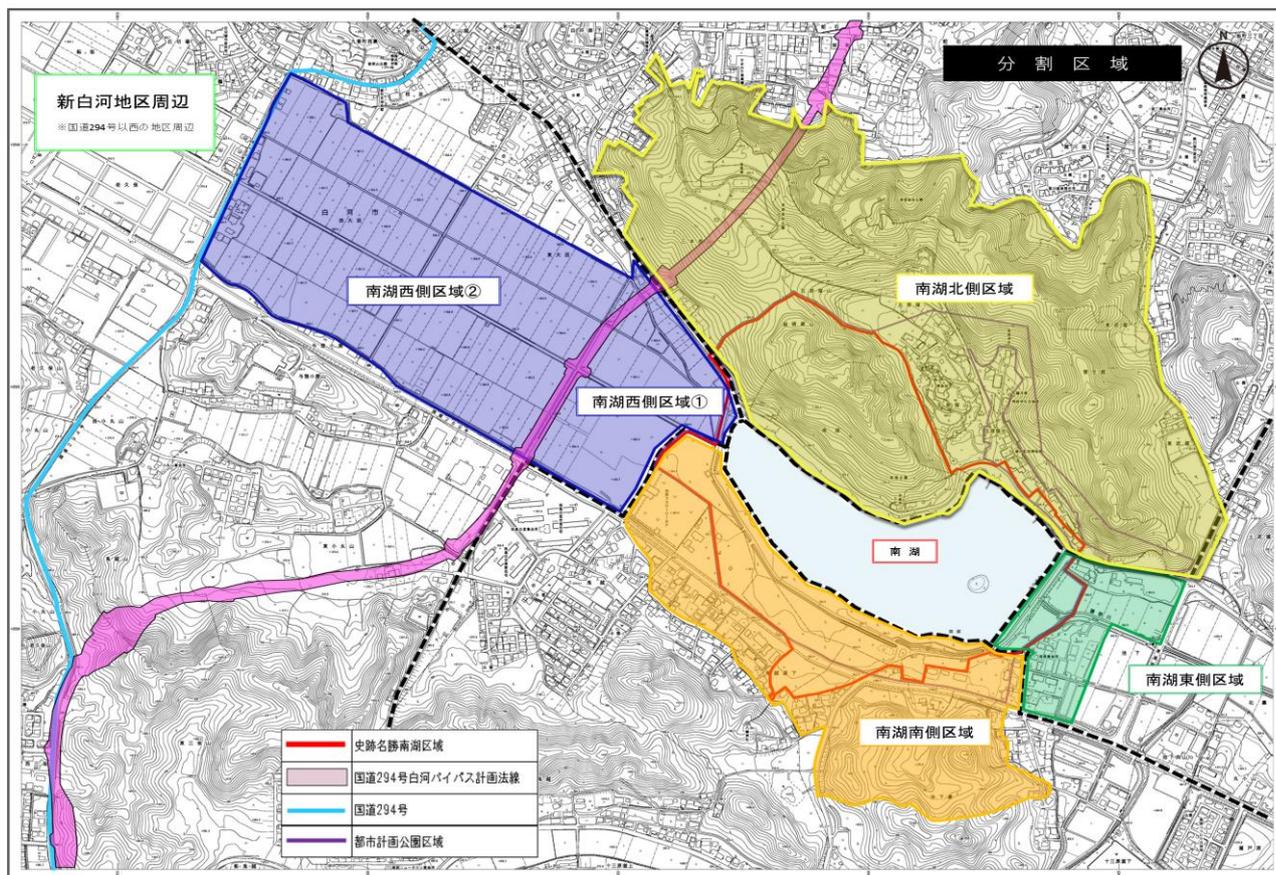


4. 各区域における施策の展開

(1) 区域設定の考え方

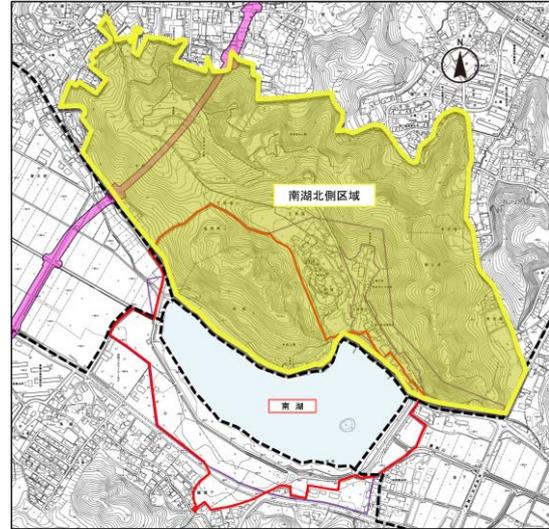
本計画において南湖公園の保存及び利活用を推進する上で、下図のように交通施設により南湖を基準に東西南北4つの区域に分割し、これまでの記述を踏まえ、「東・西・南・北」それぞれの区域ごとにその特性と課題を整理するとともに、課題解決のための取り組みの方向性を明示する。



(2) 南湖北側区域

【区域特性】

- ・ 飲食店を含む便益施設、翠楽苑や南湖神社などが集積しているほか、南湖森林公園が隣接しており、南湖公園の集客・利便性・滞在満足度の向上に特に大きな役割をもつ区域である。
- ・ 南湖公園利用の起点となっている。



【区域課題】

- ・ 平成 28 年度に策定した歴史的風致維持向上地区計画に基づき、南湖公園の自然との調和を図り魅力ある空間を造っていく必要がある。
- ・ 鏡の山や月待山などで構成される南湖風致地区は、南湖公園の良好な自然景観を構成するものであることから、樹木などを適正に維持管理する必要がある。
- ・ 公園区域内に整備されている市道南湖線は、国道 289 号の渋滞回避路線、公園内または近接宅地居住者の生活道路として利用されるほか、公園利用者の園内への進入路となっており、公園利用者（歩行者）の安全かつ快適な公園利用の障害となっている。
このため、車両の通行止め（指定車両以外の通行止めや休日の通行止めを含む。）や走行車両台数抑制などの措置を関係者と協議しながら検討するとともに、遊歩道の整備を検討する必要がある。
- ・ 南湖神社、芝生広場、翠楽苑などが整備されているほか、隣接して南湖森林公園が整備されており、レクリエーションや学習の場として連携した活用を図るため、子どもから高齢者まで全ての世代が満足できる活用策の検討が必要となる。
- ・ 南湖公園を利用するに当たり良質な時間を創造するためには、人を中心とした空間を確保する必要があり、園内の走行車両の排除（または抑制）は重要な課題である。一方で、国道 289 号の渋滞回避のため迂回する者や南湖北側区域に居住する住民、南湖神社への参拝者に利用されており、急な通行止めは困難である。
- ・ 南湖公園の適正管理を行うためには、民有地を公有化する必要がある。

【課題解決のための取り組みの方向性】

①歴史的風致維持向上地区計画（北側店舗立地区域）の推進

- ・ 南湖公園の魅力向上に当たり飲食店等は重要な役割を担っているが、様々な法規制により湖畔の店舗施設（外食・休憩施設）の改修などに支障をきたし、魅力の低下をまねくおそれがあったため、平成 28 年には同区域に歴史的風致維持向上地区計画を導入し、建築物や土地利用に関する規制を緩和する枠組みを構築した。



この計画に基づく指導を徹底し、南湖公園との適切な調和を図りながら、魅力向上に資する空間を創出する。

また、民間活力・知恵も合わせ、南湖公園の魅力向上に資するよう民間事業者との協働を推進する。

②公園内通過車両の排除または抑制

- ・ 利用者の安全かつ快適な公園空間の確保を図るため、既存駐車場の利用を促進するとともに、イベント時や曜日による通行止め、区間ごとの段階的通行止め（関係車両等を除く。）など、必要な調査や社会実験を行いつつ、これらの実証を重ねた上で車両規制を検討する。

③民有地の公有化

- ・ 将来にわたり南湖公園の適性管理を行っていくにあたっては、南湖公園区域内の民有地は原則公有化を図っていく。

居住用建築物等の民有地については、原則公有化の対象から除くものとするが、土地利用方法については十分注意していく。

④南湖風致地区内樹木の適正管理

- ・ 月待山や鏡の山、千代松原をはじめ南湖森林公園などを含む南湖風致地区は、南湖公園の景観を形成する重要な要素であるが、松くい虫の被害を受けた老木や朽木、枯死木等も見られることから、枝の剪定や間伐、伐採及びそれらを撤去するほか、適正な植栽計画を策定し、風致の適正管理により景観の一層の魅力向上を図る。

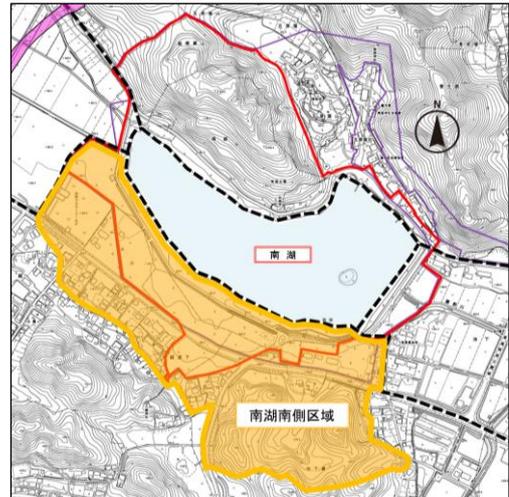
⑤周辺各種施設との相互利活用

- ・ 南湖森林公園との相互連携により利用者の行動範囲を広げるとともに各世代での満足度の向上を図る。

(3) 南湖南側区域

【区域特性】

- ・ 本区域を横断する国道 289 号は通行車両が多く、また、本路線の沿道には多くの飲食店や観光施設（フラワーワールド）など集客施設が隣接している。



【区域課題】

- ・ 南湖公園を利用するに当たり良質な時間を創造するためには、人を中心とした空間を確保する必要があり、園内の走行車両を排除（または抑制）は重要な課題である。一方で、国道 289 号の渋滞回避のため迂回する者や南湖北側区域に居住する住民、南湖神社への参拝者に利用されており、急な通行止めは困難である。
- ・ 一部が車両通行禁止区間となっているものの、歩道が整備されていないことから、歩行困難者にとっては散策が困難である。
- ・ 国道 294 号白河バイパスの開通により、国道 289 号の渋滞の慢性化が懸念される。
- ・ 国道 289 号は交通量が多く、車内から見える南湖公園の景観が利用者の増加に大きく寄与するものであることから、特に千代松原区域に隣接する建築物等については、南湖との調和が図られた形態、意匠、色彩に配慮する必要がある。
- ・ 公園施設として南湖北側区域の来訪客が本区域まで足を運べるよう、魅力づくりについて検討を要するほか、フラワーワールドや飲食店が近接していることから、これらと連携し相乗効果を得る施策も求められる。
- ・ 公共交通（バス）利用者にとってのアクセス拠点（南湖公園バス停）となっており、バス停から南湖北側区域等への動線を意識した環境を整備する必要がある。
- ・ 南湖公園の適正管理を行うためには、民有地を公有化する必要がある。

【課題解決のための取り組みの方向性】

①公園内通過車両の排除または抑制

- ・ 現在、市道新白河駅南湖線と市道南湖周囲線との接続部から南側駐車場までの区間は当該駐車場の利用のための道路となっていることから、南湖保存管理計画に基づき南側駐車場を廃止することで本区間は通行止めが可能となる。
一方で駐車場の廃止は南湖公園利用者の利便性の低下が懸念されるため、代替施設等の検討を併せて行う。

②民間施設の活用

- ・ 国道 289 号沿線には観光施設や飲食店が営業しており、これらは南湖公園の利便性や魅力の向上に資するものと考えられる。

これらの施設との相互利用を推進していくことで、南湖公園の利便性や魅力の向上及び公園利用者の誘導を図る。

③民有地の公有化

- ・ 将来にわたり南湖公園の適正管理を行っていくにあたっては、南湖公園区域内の民有地は原則公有化を図っていく。

居住用建築物、店舗施設、見学施設等の民有地については、原則公有化の対象から除くものとするが、土地利用方法については十分注意していく。

④用途地域見直しまたは地区計画の指定

- ・ 国道 289 号に隣接する飲食店等は南湖公園利用者の利便性や魅力向上に大きな役割を有すると考えられることから、現在の利用実態を踏まえ当面相互利用を推進していくため、幹線道路沿線の合理的利用促進を検討していく。

⑤南湖風致地区内樹木の適正管理

- ・ 月待山や鏡の山、千代松原をはじめ南湖森林公園などを含む南湖風致地区は、南湖公園の景観を形成する重要な要素であるが、松くい虫の被害を受けた老木や朽木、枯死木等も見られることから、枝の剪定や間伐伐採及びそれらの撤去するほか、適正な植栽計画を策定し、風致の適正管理により景観の一層の魅力向上を図る。

⑥公共交通利用者の誘導

- ・ 国道 289 号沿線にバス停（白棚線：JR バス関東株式会社）があり、公共交通利用者の主なアクセス拠点となることから、案内・誘導看板など来訪者にわかりやすい環境の整備を行う。

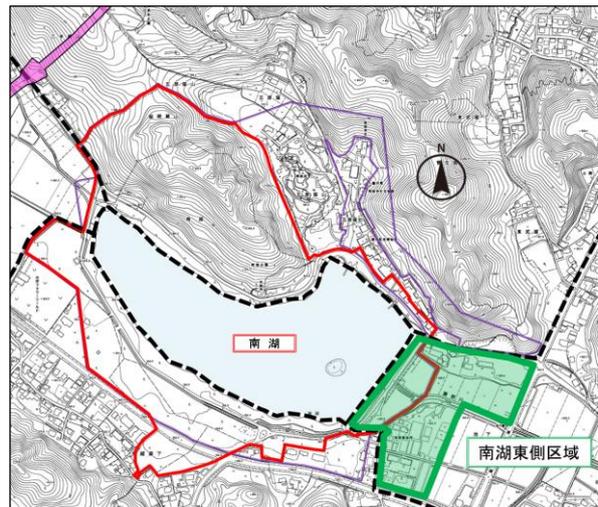
⑦国道 289 号の拡幅 4 車線化の働き掛け

- ・ 今後も継続し、県等に対し国道 289 号の拡幅 4 車線化の働き掛けを行っていく。

(4) 南湖東側区域

【区域特性】

- ・ 県道南湖公園線に接し、公園利用者の主な出入口となっており、菅生館駐車場のほか駐車可能なスペースを有する区域である。
- ・ 関山眺望景観は南湖公園活用に当たって重要な要素となっており、一部区域は白河市景観計画に基づく南湖公園周辺地区景観計画重点区域に指定されている。



【区域課題】

- ・ 南湖遠景景観には関山への眺望が重要な要素であり、また一部区域は白河市景観計画に基づく南湖公園周辺地区景観計画重点区域に指定されていることから、白河市景観条例の厳格な運用が必要となる。
- ・ 県道南湖公園線に接する区域であり、南湖公園利用に当たっての主な出入口となっていることから、公園利用者の誘導・集客のための施策などを積極的に検討・実施する必要がある。
- ・ 駐車場や駐車可能なスペースが整備されている区域であるため、これら駐車場等の利用を促進し、園内道路の車両通行止めや走行車量台数の抑制を図っていく必要がある。

【課題解決のための取組みの方向性】

① 駐車スペースの利用促進

- ・ 南湖東側区域は、南湖公園への主な出入口であり、東側駐車スペースが設けられていることから、公園利用者を案内・誘導するに当たって特に重要な役割をもつ区域となる。このため、看板やその他集客に資する施設の設置、イベントの実施など各種誘導策の実施重点区域として捉えていく。

また、当該スペースの利用を促進することで公園内走行車両の減少を図っていく。

② 民有地の公有化

- ・ 南湖公園の適正管理を行っていくに当たっては必要に応じ民有地の公有化が必要となることから、中・長期的な視点からその必要性を検討する。

現在史跡名勝区域外で利用できる駐車スペースは菅生館駐車場を除くこの区域のみであり、公園内の車両通行止めまたは抑制、利用客の増加を図っていくためには一定程度の駐車スペース等の確保が重要となる。

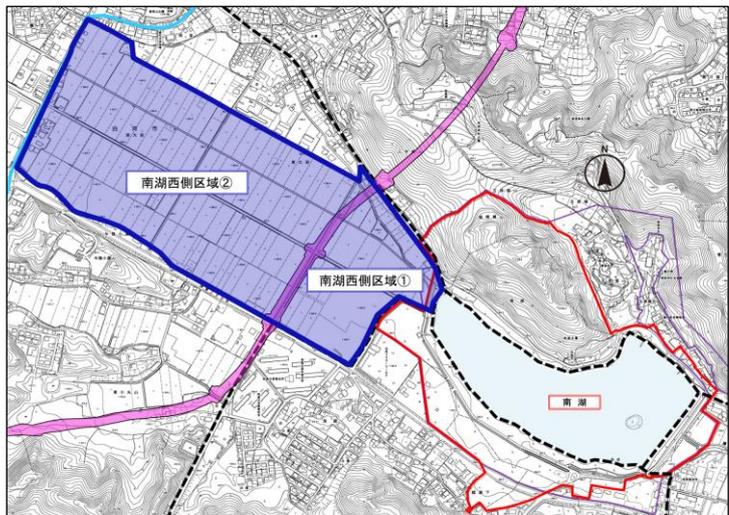
(5) 南湖西側区域

【区域特性】

- ・ 郊外型大型商業施設や店舗、アパート、住宅など各種開発が進み本市において、特に経済活動が活発な区域である。
- ・ 国道 294 号白河バイパスの整備が進んでおり、完成すると白河中央スマートインターチェンジや国道 4 号など広域主要交通施設と連携が可能となり、より広域的な人の交流が見込まれる。

また、本区域内の農地は南湖と一体となり良好な景観を形成している。

- ・ 南湖の上流に位置するこの区域は、南湖公園の水環境、自然環境、利用環境をはじめとして、様々な面で大きな影響を与える可能性が見込まれる。



【区域課題】

- ・ 新白河地区周辺については、各種開発により市街化が進んでいるが、農地保全地域となっていたことから公共インフラ整備が進められておらず、都市計画法に基づく許可を得た開発については、道路、下水道施設などインフラ整備が開発指導に基づき行われている状況にあった。このため、平成 28 年 9 月に現況を勘案し農用地区域を除外したところであり、今後は良好な市街地を形成し、南湖を含めた下流区域への汚濁水の流入や溢水のおそれを軽減、解消するため、各種インフラ整備を推進していく必要がある。
- ・ 南湖西側区域①については、南湖の本質的価値を引き継ぐとともに、南湖公園との一体的な保存と利活用を図るため、公有化を視野に入れた必要な土地利用方策を実施していく必要がある。
- ・ 南湖西側区域②については、開発圧力が高い新白河周辺に位置し、市街地付近にある大きな面積を有した土地である一方、那須連峰の眺望や付近の田園景観、南湖公園の自然環境維持、さらには、農地の多面的機能を持続的に発揮させるため、農地を適正に管理しながら、保全していく必要がある。
- ・ 市街化の進展に伴い、生活雑排水などにより南湖湖水の汚濁が顕著になってきていたが、下水道施設整備の進展に伴い、近年、それ以前と比較して改善が見られる。しかしながら、最近の水質調査で環境基準を超えることが多く、原因の調査及び解消方法を検討する必要がある。
- ・ 国道 294 号白河バイパス完成後はさらに交流人口の増加が見込まれることから、誘導・

集客策や交通処理計画などを積極的に検討していく必要がある。

- ・ 南湖公園を利用するに当たり良質な時間を創造するためには、人を中心とした空間を確保する必要があり、園内の走行車両を排除（または抑制）は重要な課題である。一方で、国道 289 号の渋滞回避のため、迂回する者や南湖北側区域に居住する住民、南湖神社への参拝者などに利用されていることから急な通行止めは困難である。

【課題解決のための取組みの方向性】

①南湖西側区域①における民有地の公有化と保存・利活用方策の検討

- ・ 国道 294 号白河バイパスの整備により南湖西側区域及び新白河地区周辺の開発圧力はこれまで以上に強くなることが予想される。南湖西側区域①については南湖公園の景観等の保存や利活用をしていく上で、特に重要な区域であることから、公有化を視野に入れながら、南湖の本質的価値を未来に引き継ぎつつ、南湖公園のポテンシャルを最大限活用していくための整備手法について検討を行っていく。

②南湖西側区域②における自然的環境の保全

- ・ 南湖西側区域②については、本市の優良農地として農業振興に大きく寄与しているほか、南湖公園一帯の自然環境や景観を形成する上で重要な区域である。このため、農地の保全を基本とし、農用地区域の除外及び農地転用については、農業振興地域の整備に関する法律及び農地法に基づく厳格な指導などにより、自然的環境の保全を図っていく。

③地域振興施設等の整備

- ・ 観光客等の回遊を促進するためには本区域に魅力ある拠点が必要となると同時に国道 294 号白河バイパスの整備に伴う交通車両の整理を行う必要があることから、地域振興施設や道路等の整備について検討を行っていく。

④水質浄化施設の設置または水生植物等による水質自然浄化の促進

- ・ 下水道施設の整備が促進されたことや池干しなど水質環境改善事業により、以前に比べ南湖湖水の水質は、かなり改善されてきたが、依然 COD（化学的酸素要求量）や SS（浮遊物質質量）、大腸菌群数などが環境基準を超えていることから、浄化施設設置などによる適切な湖水の浄化を行うとともに、良好な湖水の水質及び水量を確保するための給水ルート調査・検討を行う。

⑤下水道施設の整備促進及び接続指導

- ・ 新白河地区周辺の下水道施設は概ね整備されており、以前に比べ生活雑排水等の南湖への流水は大きく減少したが、未だに水質が悪化するなど様々な原因が考えられ、完全に解決するには至っていない。また、同地区周辺については開発者側で設置した下水施



設があり、下水道整備予定区域になってはいるものの民間開発の指導により設置されている状況にある。

このため、下水道施設整備の促進や下水道法に基づく下水道設置義務履行の指導徹底を図る。

⑥公園内通過車両の排除または抑制

- ・ 利用者の安全かつ快適な公園空間の確保を図るため、既存駐車場の利用を促進するとともに、イベント時や曜日による通行止め、区間ごとの段階的通行止め（関係車両等を除く。）など、必要な調査や社会実験を行いつつ、これらの実証を重ねた上で車両規制を検討する。

(6) 各区域共通

【課題解決のための取組みの方向性：重要区域及び準区域共通】

①南湖の魅力の情報発信

- ・ 南湖の歴史と自然豊かな憩いの場としての価値について情報発信し、南湖に対する誇りや愛着を感じられるよう市民等の意識のさらなる醸成に努める。

②歩行者用園路（散策路）の整備

- ・ 南湖周遊延長約 2km のうち市道南湖周囲線及び市道南湖線の一部区間を合わせた北側約 1km については歩道がなく、特に共楽亭付近のカーブについては幅員が狭く見通しも悪いことから散策者にとっては極めて危険な箇所となっている。また、既に通行止めになっている区間においても一部が砂利道のため、車椅子利用者や高齢者などにとって利用しづらい道となっている。このため、すべての人が、安全にゆっくりと安心して散策できる歩行施設及び空間を確保する。

③休憩施設の整備

- ・ 南湖公園を散策するに当たっては、休憩場・休憩施設や立ち止まれる場が必要と考えられることから、そうしたポイントの整備を図る。

④市PR情報の集約

- ・ 南湖公園は四季を通し多くの観光客が訪れる本市を代表する観光施設であることから、本市をPRするには最も有効な資源といえる。
このため、南湖の歴史や自然のほか、本市全体の歴史や観光情報、物産、ご当地グルメなど集約した情報をPRし、南湖公園の利便性を高めるだけでなく、市全体の活性化につなげていく。

⑤湖水及び公園内環境の保全

- ・ ヒツジグサ等の湿原植物群やジュンサイなどかつての多様な生物が生息する湖の状況に戻すため、水質改善や侵略的外来種の駆除などを行う。
- ・ 空き缶や紙くず、動物（ペット）のフンなどにより南湖公園利用者に不快感を与えないため、清潔感のある空間を保持する。